

拝啓 今年も早や 11 月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。いつの間にか、秋も終わりのころとなりました、毎朝近所の公園を犬と一緒に散歩しますが、太陽光線の具合、霧のかかり方などによって、紅葉が実にきれいに见えることがあります。

今回は、内村鑑三先生の『統一日一生』からの引用の 8 回目です。次のような個所には、「同感」と言いたくなります。

「8 月 3 日 人生の真の幸福は、責任を担わずしてこれを楽しむことはできません。責任に当たらずして、自分の内にある能力の程度を知ることができません。…人生実は責任ほど尊きものはありません。責任を避くるのは愚の極であります。」

「8 月 26 日 人生短しと言えども、もし一つのことを続いて毎日少しずつなすならば死ぬまでには一大事業を成就することができる。驚くべきは、毎日少しずつ仕事の結果である。急に大事業を思い立って成すにあらずして、毎日、降っても照っても、時を得るも得ざるも、こつこつとなすことである。…少しずつ、然り、少しずつ毎日少しずつ、静かに毎日、少しずつ。愛する日本人よ。」

これらは、do the nearest duty の考え方であります。内村先生の根本的な思想の一つであると思います。内村先生は、毎月『聖書の研究』をきちんと出され、その結果、「内村鑑三全集全 40 巻」を、後世に残されました。

11 月 3 日、第 13 回南原繁シンポジウムを、学士会館で開催しました。私が、加藤節先生に代わり、開会のあいさつを述べました、13 回もシンポジウムが続いたのは、①南原先生の思想や業績の多面性、②聴衆が毎年来て下さるおかげ、③赤沢記念財団から援助のおかげ、と述べました。今年は、「南原繁の戦後体制構想」というテーマで、南原研究会の 4 人の若手研究者が、30 分ずつ報告をしました。なかなか充実したシンポジウムでした。懇親会でも、鴨下重彦先生の奥様の和子さん、南原先生の 4 女中込悦子さん、雑誌「潮」に南原先生の歴史小説を連載中の小説家の村木嵐さんが出席、スピーチをして下さり、良い懇親会でした。最初の第 1 回から、見様見真似で事務局を務めて、こんなに長く続けていることは驚きであり、「継続は力なり」という言葉を実感します。シンポジウムの翌日、作家の村木嵐さんを案内して、多磨霊園に南原繁先生ほかのお墓参りをしました。11 月 15 日には、八柱霊園に、鈴木英雄さん、関根義夫先生とともに、鴨下重彦先生のお墓参りをしました。

寒い冬に向かう季節の変わり目、皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、お過ごしください。

敬具

平成 28 年 11 月 23 日

山口周三

エンカウターの読者各位